





















## 管公と鸞うせの由来

その昔管公（管原道真公）が太宰府に下向の折、蜂の大群が現われ一步も進めなかつたとき、いづこからともなく鸞うせの大群が飛来してきて、またく間に蜂を全滅させ、管公の一行は無事通行できたという由緒があります。鸞うせの鳥は鳩よりやや小さく、頭と尾は黒く、腰のあたりは白く、腹部と背は灰色で雄の胸は美しいバラ色をし、奇麗な声で鳴くのが有名です。

拝殿の前にある鸞うせの像の頭をとすると、頭が良くなることから、天満宮さまの守り鳥として知られ、幸運の神として信仰があり、広く親しまれています。

鸞うせ替え神事は、一年中の嘘と誠を神前にて取替え、罪滅のためといわれ、開運の出世を授かると信じられ、求めて帰った鸞うせを神棚にお祀まつりすると、除災招福と、家運隆盛を、祈願するのもこの故であります。

梅安天満宮氏子総代





















































































































天満宮

天保六年三月廿五日

奉献

奉献  
大伴寺